

社 説

子どもの健全育成に地域がどう関わり、支えていくのか。大館市釈迦内地区で2011年から続く「釈迦内サンフラワープロジェクト」は、そんな問い掛けへの答えの一つである。文字通り、地域をヒマワリでいっぱいしようという活動。実践的キャリア教育の模範事例として、県内外のけん引役となってもらいたい。

スローガンは「すべては未来を担う子供たちのために」。主役は児童だ。地元のまちづくり協議会が母体の実行委員会が主導。栽培から種の収穫・搾油、食用油製造、流通・販売に至る

ヒマワリ実践教育

地域づくりのけん引役

までの全過程を体験させる。釈迦内小学校(275人)の五十嵐経校長が提唱した。

子どもの職業観を醸成するの狙い。一年草のヒマワリに着

運び込まれた学校に主婦たちがほぼ毎日通い、種取りの地道な作業に精を出す。趣旨に賛同した地元企業は約20に上り、従業員が仕事の合間に加勢。実行委

から分けてもらった種を自宅の庭にまき、咲き終わった花から種を取って提供する住民もいる。活動は地域の結束強化にもつながっており、他地域もぜひ参考にしてほしい。

上げと市助成金などを合わせ424万円。必要経費などを差し引いた89万円は、6年生を対象にした教育宿泊研修や他校との交流事業などに充てた。

が狙い。一年草のヒマワリに着

種を取って提供する住民もい

てさらに大きく育てていこうと

目し、通年で6次産業の一端に

る。活動は地域の結束強化にも

いう試みだ。労働の対価を得る

ている。社会全体が縮小する中、

直接触れさせようという着想が

つながつており、他地域もぜひ

喜びを体感させ、地域住民への

持続可能な地域社会の構築に

いい。身の回りにある資源が、

参考にしてほしい。

感謝の気持ちを育む仕掛けでも

は、子どものうちから地域づく

光の当て方一つで立派な教材に

なる好例といえるだろう。

ある。発想の独創性、事業のき

りに積極参加させて地元定着を

見落としていけないのは、プ

ロジェクトを支える地域住民の

め細かさは称賛に値する。

促し、将来の人材育成に結び付

ロジェクトを支える地域住民の

が学校に還元されている点だ。

ぼくと、釈迦内地区には県内外

取り組みは、そうした意味でも

協力態勢だ。収穫期には、花が

実行委の昨年度収入は、油売り

からの視察団が絶えない。島根

示唆に富む。